

ローカリゼーションの ベストプラクティス ガイド



ローカリゼーションプロジェクトは、時として複雑になることがあります。しかし幸いにも、いくつかの手順を実行することでプロセスをシンプルにすることができます。このガイドでは、スムーズなローカリゼーションプロセスの実現に役立つ、主要なベストプラクティスをご紹介します。

01: プロジェクトのスケジュール

02: コスト削減と時間短縮のヒント

03: 一般的なローカリゼーション用語

04: 翻訳メモリ

05: グラフィックファイルとFlashファイル

06: 言語スタイル、翻訳の好み、用語集

07: 方言



01

プロジェクトには現実的なスケジュールを設定する

急いでいては、高品質の翻訳を実現できません。翻訳プロセスと必要な社内レビューには、十分な時間を確保することが重要です。

厳守しなければならないスケジュールや納期がある場合は、最初の連絡や見積もり依頼時に提起する必要があります。優先される言語なども含め、納期や優先順位を最初から明確に示すことで、翻訳会社（LSP）はプロジェクトを適切に管理できます。

スケジュールには、プロジェクトライフサイクル全般の各段階と要件をすべて含める必要があります。翻訳会社は、すべての要素を考慮した現実的なスケジュールが作成されるよう支援してくれるはずです。

“
リングリストが1日に可能な
翻訳量は平均で
約1,800ワードまたは
約6ページです
”

02

コスト削減と時間短縮のヒント

翻訳会社から正確な見積もりを得るために重要なのが、元となる形式として適切に構成された原文ファイルを提供することです。ファイルを元の形式で提供すると、コンテンツの抽出、翻訳、再構築が容易になり、コスト効率が向上し、作業が迅速に進みます。

PDFファイルでの提供はお勧めできません。柔軟性に欠けるファイル形式で、テキストや画像を効率的に抽出しにくいいため、コストが増大する可能性があります。不要なファイルや適切に構成されていないファイルを提供した場合、また原文ファイルを提供しない場合は、提示される翻訳の見積もりやスケジュールに大きなばらつきが見られることがあります。

ウェブサイトコンテンツの場合、翻訳会社が、翻訳対象のウェブサイトのリンクのみからプロジェクトの納期やコストを正確に評価することは非常に困難です。原文の.htmlファイルまたは.xmlファイルを提供すると、関連するすべてのコンテンツが考慮され、煩雑な手動のコピー&ペーストを回避でき、ローカライズ済みコンテンツをウェブサイトにインポートし直す際のエラーの発生リスクが低減します。

原文の.htmlファイルや.xmlファイルではなくウェブサイトへのリンクを提供した場合は、ウェブローカリゼーション戦略について、十分な情報に基づいて判断することが不可能になります。

リンクによる見積もりでは、次のようなリスクが考えられます。

- ゲート付きコンテンツなど、表示できないウェブコンテンツがある。翻訳会社が適切に評価し、最適な翻訳ソリューションを提案するためには、すべてのウェブコンテンツが不可欠
- 対象外のコンテンツが含まれ、ワード数とコストが増加する
- 利用可能な翻訳メモリをすべて把握できない
- 翻訳会社が、コストや期間について、精度のかなり劣る概算見積もりしか提示できない
- さまざまな翻訳会社からの提案を同一条件で比較できない

社内のコンテンツ所有者は、さまざまな部門に存在します。



テキストを含むグラフィックファイルを翻訳する場合は、元の原文ファイルを提供することが特に重要になります。翻訳会社は、編集可能なグラフィックファイルがなくてもグラフィックを再作成できますが、これには時間がかかり、結果として時間とコストの増加につながります。

“ 原文ファイル形式には、.doc、.xls、.ppt、.indd、.html、.xml などがあります ”

03

一般的なローカリゼーション用語を理解する

プロジェクトに関する話し合いでは、次のようなローカリゼーション用語や略語が一般的に使用されます。

概算見積もり	概算見積もりは、プロジェクトのコストと所要期間の指標となり、予算確保に役立ちます。
CAT	コンピュータ支援翻訳。CATソフトウェアを言及する際によく使用されます。リンギストはCATを使用し、コンテンツの翻訳作業の迅速化、品質の確保、コスト削減を図ります。
DTP	デスクトップパブリッシング。翻訳済みバージョンで原文ドキュメントのルック&フィールを再現する、ファイルの書式設定です。
用語集	プロジェクトの用語と定義のリスト。用語の意味や文脈の詳細など、一般的な情報も含めることができます。
LSP	翻訳会社。翻訳や言語サービスを提供するベンダー。
LQA	言語品質保証。リリース前にローカライズ済みコンテンツや製品を確認し、発見された問題を解決するプロセス。
MT	機械翻訳。ソフトウェアを使用し、テキストを即座に自動翻訳します。

ポストエディット	MTで翻訳したテキストを人間のリンギストが手直りする作業。
見積もり	決められているコストと期間を使用した、実際のファイルに基づく確定見積もり。
原文コンテンツ	原文資料とも呼ばれる、翻訳対象の元のコンテンツ。
原文言語	元のコンテンツの作成に使用された言語。
訳文言語	コンテンツの翻訳後の言語。
TMS	翻訳管理システム。翻訳プロジェクトの管理、割り当て、レポート作成を行うワークフローツール。オンラインでの見積もりや追跡も可能です。
トランスクリエーション	特定の文化的・言語的な意味合いを伝えるために、テキスト、スタイル、デザインを調整するプロセス。マーケティングや広告など、オーディエンスとの感情的なつながりを必要とする、繊細なニュアンスを含むメッセージに特に役立ちます。

04

翻訳メモリ

翻訳メモリ (TM) は、ローカリゼーションプロセスに欠かせない要素です。過去に翻訳された分節を保存して再利用できるようにする、多言語データベースの一種です。

TMは、翻訳プロセスの開始時と終了時にファイルに適用されます。プロジェクトの開始時は、原文コンテンツが、TMに保存済みのテキストに対して分析され、繰り返し、100%一致、あいまい一致が特定されます。プロジェクトの終了時は、最終の翻訳がデータベースに保存されて、将来的に再利用できるようになります。

TMを使用するメリットとは

コスト削減: 保存された翻訳が増えるにつれ、コストを削減できます。また、100%一致、あいまい一致、繰り返しには、ワード単価に割引が適用されます。

納期の短縮: 翻訳されたコンテンツが増えるにつれ、翻訳メモリデータベースが大きくなります。TMが大きくなれば、一致訳が見つかる可能性も高くなり、将来的にプロジェクトの翻訳に必要な時間が短縮されます。

一貫性: 新しいテキストのみを更新することで、スタイル、語調、用語が過去の翻訳済み資料と一貫するようになります。また、レビュアーの修正や優先したい変更もTMに保存されるため、レビュアーの手間を軽減できます。

以前の翻訳が翻訳メモリに保存され、再利用できるため、同じテキストを繰り返し翻訳したり、請求したりすることがなくなります。TMが大きくなるにつれ、リングストの作業スピードがアップするため、プロジェクトのスケジュール短縮やコスト削減が実現します。



100%一致: 完全に一致する翻訳がTMにあります。この翻訳は、再利用され、新しい翻訳の精度を確保するためにレビューされます。完全一致とも呼ばれます。



あいまい一致: 新しい翻訳に類似する翻訳一致。以下はその例です。

翻訳対象の新しいテキスト: 「The *cat* sat on the mat」
以前の翻訳時のテキスト: 「The *dog* sat on the mat」

以前の翻訳は再利用できます。翻訳が必要なのは「*dog*」のみです。1ワードのみ翻訳すればよいため、コストが大幅に削減されます。



繰り返し: ドキュメント全体または一連のドキュメントで繰り返される用語またはフレーズの翻訳一致。繰り返されるテキストの翻訳と請求は1回のみです。何回も再利用されるため、時間と予算を節約できます。

05

ローカリゼーションを念頭に置いてグラフィックファイルやFlashファイルを作成する

グラフィックやFlashは、コンテンツで重要な役割を果たします。ただし、ローカリゼーションを念頭に置いて作成しないと、グラフィック要素やFlash要素が複雑になり、ローカリゼーションプロセスの遅延につながることがあります。

この場合のベストプラクティスは、Flashやグラフィックテキストを外部化し、文化的に適切なイメージを事前に予測できるようにすることです。不明な点がある場合は、翻訳会社にご相談ください。

06

言語スタイル、翻訳の好み、用語集を共有する

翻訳は主観的になりがちです。そのため、翻訳に求めるスタイル、語調、使用域を翻訳会社に理解してもらうことが不可欠になります。

スタイルガイドや用語集を含むガイダンスの提供は、翻訳の用途に関する説明と同じく役に立ちます。翻訳者は、このような情報を基に、オーディエンスに適した翻訳になるようカスタマイズします。

使用域とは、状況に応じた言語の使用法を意味します。たとえば、「公式」と「非公式」では使用する言葉が異なります。



07

ターゲット市場に適した方言を選択する

翻訳会社は、翻訳プロジェクトのターゲット市場を理解し、適切な種類の言語を使用する必要があります。たとえば、スペイン語には、ヨーロッパのスペイン語、中南米のスペイン語、メキシコのスペイン語など、さまざまな種類があります。

言語は常に変化し、進化しています。そのため、ローカリゼーションプロジェクトでは専門知識を備えた各国のネイティブ翻訳者を使用することが重要になります。言語の種類が不明な場合は、翻訳会社にアドバイスを求めることができます。



ヨーロッパのスペイン語



中南米のスペイン語



メキシコのスペイン語



RWSのローカリゼーションの専門家がサポートします。

次回のプロジェクトを開始するためにサポートが必要ですか？
rws.com/jp/contactまでお問い合わせください

RWSについて

RWS Holdings plcは、テクノロジーを駆使した言語サービス、コンテンツサービス、知的財産サービスを提供する、唯一無二のリーディングプロバイダです。当社はコンテンツの変革と多言語データ分析を通じて、テクノロジーと文化に関する専門知識を独自に組み合わせ、お客様がどこでも、あらゆる言語で理解されるようにすることでビジネスの成長をサポートします。

当社が目指しているのは、グローバルな理解の実現です。文化の理解、企業の理解、技術の理解を組み合わせることにより、当社のサービスとテクノロジーが、顧客の獲得と維持、魅力的なユーザー体験の提供、コンプライアンスの維持、データやコンテンツにおける実用的なインサイトの獲得など、お客様をさまざまな面でサポートします。

世界のトップブランド100社の80%以上、フォーチュン誌の「最も賞賛される企業」20社の4分の3以上、さらに大手製薬会社、投資銀行、法律事務所、特許事務所のほぼすべてが当社を利用しています。また、クライアントベースは、ヨーロッパ、アジア太平洋、南北米におよび、5つの大陸に展開した65を超えるグローバル拠点から、自動車、化学、金融、法律、医療、製薬、テクノロジー、電気通信の各分野のお客様にサービスを提供しています。

1958年に設立されたRWSは、英国に本社を置き、AIM、ロンドン証券取引所規制市場に上場されています（RWS.L）。詳細については、www.rws.com/jpをご覧ください。

© 2023 All rights reserved. ここに記載されている情報は、RWS Group*の機密情報および専有情報とみなされます。

* RWS Groupとは、RWS Holdings PLCおよびその関連会社および子会社の代表を意味します。